

## 4月1日現在の就職活動状況

新年度に入り、2015年度就職戦線は採用選考のハイシーズンを迎えた。4月1日現在の就活モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、前年に比べ内定率の上昇が確認された。

### 1. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は23.7%。前年同期(19.6%)より4.1ポイント上昇
- 内定者の20.1%が就職活動を終了

### 2. 内定を得た業界

- 文系は「建設・住宅・不動産」「情報処理・ソフトウェア」などが上位に
- 理系は「情報処理・ソフトウェア」に内定が集中

### 3. 4月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均82.1社、エントリーシート提出18.2社。前年との大きな変化なし

### 4. 志望業界の推移

- 文系1位「銀行」、理系1位「素材・化学」。11月調査時より分散化

### 5. 理系学生の会社施設見学への参加状況

- 工場見学参加者40.0%、研究所見学27.1%。参加者の9割超が「有意義」と回答

### 6. ここまでの就職活動で後悔していること

- 「自己分析」52.3%、「業界研究・企業研究」49.4%の順。全体的に前年より数値下がる

### 7. 就職活動の難易度

- 「厳しい」59.3%、「やさしい」12.0%。先月調査より「やさしい」の割合が増加

《参考データ》 大学地域別集計(抜粋)

#### 《調査概要》

- 調査対象 : 2015年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
- 回答数 : 1,325人(文系男子423人、文系女子347人、理系男子374人、理系女子181人)
- 調査方法 : インターネット調査法
- 調査期間 : 2014年4月1日~7日
- サンプリング : 日経就職ナビ2015就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 4月1日現在の内定状況

4月1日現在のモニターの内定率は23.7%。前年同期より4.1ポイント高く、リーマン・ショック後の就職戦線(2010年卒者以降)で、4月の内定率としては最も高い数字を示した。一人あたりの内定社数は平均1.5社で、前年(1.5社)と同水準だった。

景況感の回復を受け、企業の新卒採用意欲はここ数年で最も高まっており、3月に発表された日本経済新聞社の新卒採用計画調査でも、大卒採用計画数は4年連続で前年比2ケタ増を記録。43業種中32業種が今春実績よりも大卒採用を増やすとしていた。

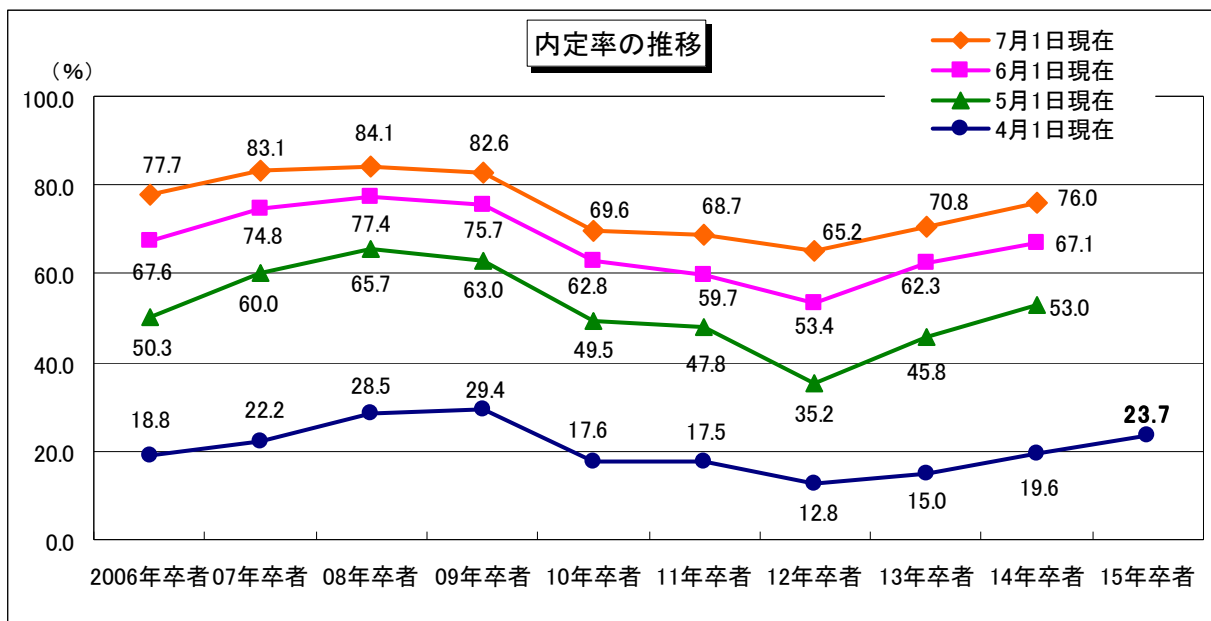
内定取得学生のうち就職先を決定し活動を終了させたのは20.1%で、前年同期調査(18.6%)よりもやや増加し、活動終了者が増えた。学生に人気の企業が昨年より早めに内定を出している可能性があるが、現時点ではこの実証は難しく、5月以降の動向を見守りたい。

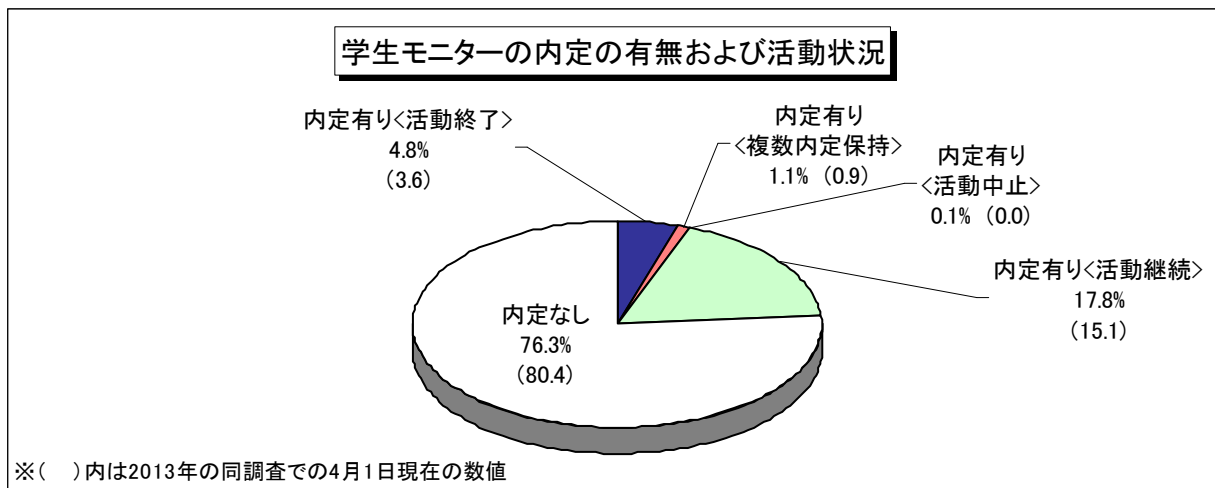
4月1日現在の内定の状況

\*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定有り		23.7 (19.6)	21.5 (19.3)	21.3 (16.5)	24.3 (21.4)	32.0 (24.0)
内定なし		76.3 (80.4)	78.5 (80.7)	78.7 (83.5)	75.7 (78.6)	68.0 (76.0)
内定社数(平均/社)		1.5 (1.5)	1.5 (1.8)	1.5 (1.4)	1.5 (1.4)	1.3 (1.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	20.1 (18.6)	17.6 (15.5)	10.8 (10.3)	30.8 (26.7)	19.0 (22.2)
	終了したが複数内定保持	4.5 (4.7)	4.4 (7.1)	5.4 (6.9)	4.4 (2.7)	3.4 (0.0)
	進学などの理由で活動を中止	0.3 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	1.7 (0.0)
	就職活動継続	75.2 (76.7)	78.0 (77.4)	83.8 (82.8)	64.8 (70.7)	75.9 (77.8)

※( )内は2013年の同調査での4月1日現在の数値





## 2. 内定を得た業界

4月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を聞き、上位業界を表にまとめた(全40業界。複数回答あり)。まだサンプル数が少ないため参考値だが、こういった業界が早く動いたかを知る目安になるだろう。

まず文系は、前年調査に引き続き「建設・住宅・不動産」が1位だった。住宅・不動産販売業界は裾野が広く、比較的早い時期から採用活動を進める企業が多いため、早期の内定が集中したのだと見られる。2位は前年同様「情報処理・ソフトウェア」だが、やはり業界全体での採用規模が大きく、早期に選考を行う企業も多いため、毎年早い時期から多くの内定が出ている。

「建設・住宅・不動産」は理系でも2位と上位に来ているが、「情報処理・ソフトウェア」が30.9%と内定が集中しているのが特徴的だ。この2業界が率先して早期に内定を出した様子が表れている。

### 内定を得た業界(文系)

(%)

2015年卒者		2014年卒者		2013年卒者	
1	建設・住宅・不動産 15.8	1	建設・住宅・不動産 18.3	1	銀行 16.0
2	情報処理・ソフトウェア 15.2	2	情報処理・ソフトウェア 15.5	2	情報処理・ソフトウェア 11.2
3	情報・インターネットサービス 10.9	3	銀行 13.4	3	その他サービス 10.4
4	銀行 8.5	4	教育 11.3	4	スーパー・コンビニエンス 9.6
5	専門店 7.9	5	情報・インターネットサービス 10.6	5	情報・インターネットサービス 8.8
	調査・コンサルタント 7.9		スーパー・コンビニエンス 10.6		

### 内定を得た業界(理系)

(%)

2015年卒者		2014年卒者		2013年卒者	
1	情報処理・ソフトウェア 30.9	1	情報処理・ソフトウェア 38.7	1	情報・インターネットサービス 25.9
2	建設・住宅・不動産 15.4	2	建設・住宅・不動産 10.8		建設・住宅・不動産 25.9
3	医薬品・医療関連・化粧品 13.4	3	機械・プラントエンジニアリング 9.9	3	情報処理・ソフトウェア 24.1
4	情報・インターネットサービス 9.4	4	情報・インターネットサービス 9.0	4	医薬品・医療関連・化粧品 12.1
5	通信関連 6.7	5	人材紹介・人材派遣 7.2	5	人材紹介・人材派遣 6.9

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

### 3. 4月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

4月1日現在の活動量をまとめた。一人あたりのエントリー社数は平均で82.1社と、前年(81.3社)より0.8社微増した。今期は1月調査以降、対前年比微増で推移しているが、4月時点でもそのペースに変化はない。今後のエントリー予定社数は11.6社で、先月調査(3月調査)の8.5社より増えている。選考が本格化したばかりだが、早々に志望の幅を広げる必要性を感じている学生も少なくないようだ。

エントリーシート提出社数は平均18.2社。先月調査の11.8社からは6.4社増えたが、前年同期(18.6社)を僅かながら下回った。共通ESの登場で、学生がエントリーシートを作成する負担は減ったかに思えるが、提出社数の増加という現象は見られない。

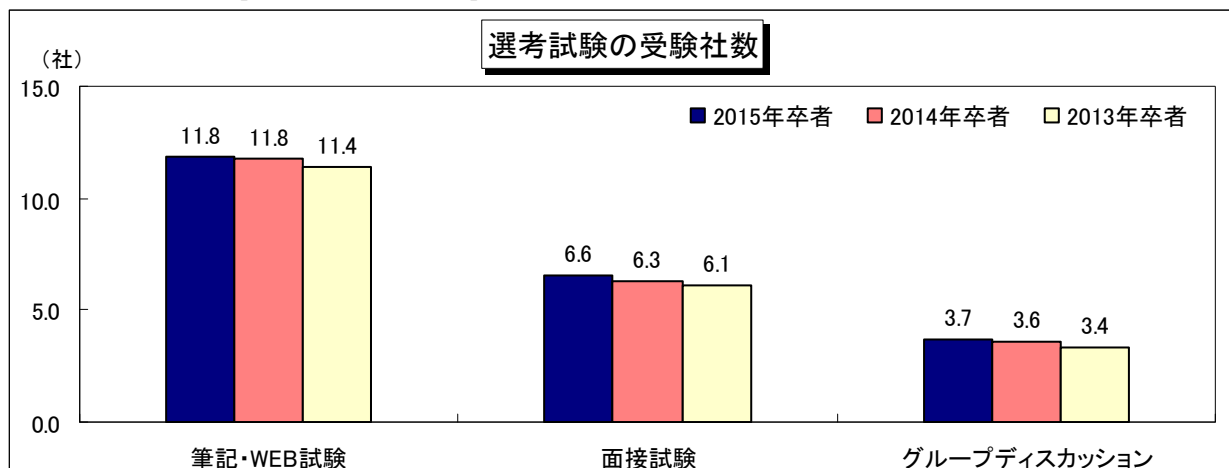
企業単独セミナーへの参加社数は21.0社で、前年同期(21.9社)を僅かに下回り、選考試験の受験社数は微増傾向。

今年の学生のセミナー参加や選考試験受験といった活動量は、全体的に前年同期とほぼ同水準で推移している。就職環境の改善で、学生の活動量が減る可能性も論じられたが、大きく減ることはなかった。

4月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年3月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	82.1	73.5	81.3	92.6	92.5	60.7	81.9
今後のエントリー予定 (社)	11.6	8.5	12.0	13.4	10.9	10.5	10.1
セミナー・説明会参加 (社)	49.0	44.7	49.3	53.3	53.9	42.7	42.8
企業単独開催のもの (社)	21.0	17.7	21.9	23.9	23.7	16.7	18.4
合同開催のもの (社)	15.6	14.7	15.4	17.6	16.5	13.6	13.0
学内開催のもの (社)	12.4	12.3	12.1	11.9	13.7	12.3	11.4
オンラインセミナー視聴 (社)	6.5	6.0	6.6	6.8	7.0	6.0	6.1
ライブ中継 (社)	3.3	3.1	3.4	3.4	3.5	3.1	3.1
オンデマンド(録画) (社)	3.3	2.9	3.2	3.4	3.5	2.9	3.0
エントリーシート提出 (社)	18.2	11.8	18.6	19.7	19.0	14.7	20.2
現在選考中 (社)	6.2	—	—	6.6	6.8	5.5	5.8
これから受験予定 (社)	5.0	—	—	5.8	6.1	3.6	4.0

\*「今後のエントリー予定」「選考中および受験予定」は、就職活動継続者のみ回答



#### 4. 志望業界の推移

4 月時点の志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらい、今年度最初の 11 月下旬調査（プレ期調査）と比較した。全体的に数字がなだらかになり、やや分散化した。一人あたりが選んだ業界数は平均 3.6 業界（11 月）から 3.2 業界（4 月）とあまり変わらず、依然として 3 業界以上を志望している。

文系は、1 位・2 位の順位は変わっていないが、「銀行」は 36.6%から 33.4%へと 3.2 ポイントほど下がり、「マスコミ」は 23.7%から 18.1%へと 5.6 ポイント下がった。人気の割に採用数が少ない「水産・食品」は 3 位から 9 位へ、「商社（総合）」は 4 位から 8 位へと順位を下げた。逆に順位が上がったのは「保険」「信用金庫・信用組合」といった金融業界や「官公庁・団体」。エントリーシートや筆記試験の結果が出て不合格者が多い業界は順位が下がり、公務員や一般職（エリア職）など、選考の時期が遅く、これからチャンスがある業界が相対的に上がっている印象だ。

理系は専攻との結びつきが文系よりも強い。就職活動中に大きな業界変更はしにくいと思われるが、ほとんどの業界が 11 月よりもポイントを落としており、分散化傾向がうかがえる。その中で、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が 15.9%から 19.4%へと伸びているが目立つ。前述した通り、「情報処理」は早期に選考を進め、本調査時点で多くの内定者を出している。

志望業界の推移(文系)

11月下旬調査		%	4月調査		%
1位	銀行	36.6	1位	銀行	33.4
2位	マスコミ	23.7	2位	マスコミ	18.1
3位	水産・食品	21.6	3位	保険	17.5
4位	商社(総合)	20.6	4位	運輸・倉庫	17.1
5位	運輸・倉庫	20.0	5位	官公庁・団体	15.8
6位	ホテル・旅行	17.3	6位	商社(専門)	14.2
7位	官公庁・団体	15.0	7位	信用金庫・労働金庫・信用組合	14.0
8位	保険	14.5	8位	商社(総合)	13.5
9位	建設・住宅・不動産	12.8	9位	建設・住宅・不動産	12.8
10位	信用金庫・労働金庫・信用組合	12.5		水産・食品	12.8
	商社(専門)	12.5	11位	ホテル・旅行	11.1
12位	エネルギー	12.1	12位	情報・インターネットサービス	9.8
13位	調査・コンサルタント	11.9	13位	証券・投信・投資顧問	9.4
14位	医薬品・医療関連・化粧品	11.1		調査・コンサルタント	9.4
15位	教育	9.6	15位	電子・電機	9.1
16位	証券・投信・投資顧問	8.8	16位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.7
	エンターテインメント	8.8	17位	素材・化学	8.1
18位	情報・インターネットサービス	8.7	18位	教育	7.6
19位	素材・化学	8.1	19位	自動車・輸送用機器	7.2
20位	印刷・パッケージ	7.2		通信関連	7.2

志望業界の推移(理系)

11月下旬調査		%	4月調査		%
1位	水産・食品	29.4	1位	素材・化学	21.8
	医薬品・医療関連・化粧品	29.4	2位	医薬品・医療関連・化粧品	21.4
3位	素材・化学	26.2	3位	水産・食品	20.9
4位	電子・電機	21.3	4位	電子・電機	19.7
5位	情報・インターネットサービス	19.7	5位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.4
6位	エネルギー	17.7	6位	情報・インターネットサービス	18.6
7位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.9	7位	自動車・輸送用機器	14.0
8位	機械・プラントエンジニアリング	15.3	8位	機械・プラントエンジニアリング	13.6
9位	調査・コンサルタント	14.9	9位	エネルギー	12.1
10位	自動車・輸送用機器	13.9	10位	精密機器・医療用機器	11.9
11位	精密機器・医療用機器	12.9	11位	建設・住宅・不動産	10.6
12位	官公庁・団体	12.1	12位	官公庁・団体	9.7
13位	建設・住宅・不動産	10.7	13位	通信関連	9.3
14位	マスコミ	10.1	14位	調査・コンサルタント	9.1
	商社(総合)	10.1	15位	運輸・倉庫	7.8
16位	通信関連	9.5	16位	銀行	6.7
17位	商社(専門)	8.5	17位	マスコミ	6.1
18位	運輸・倉庫	8.0		商社(総合)	6.1
	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	8.0	19位	鉄鋼・非鉄・金属製品	5.4
20位	銀行	7.8	20位	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.2

※上位 20 業界を抜粋

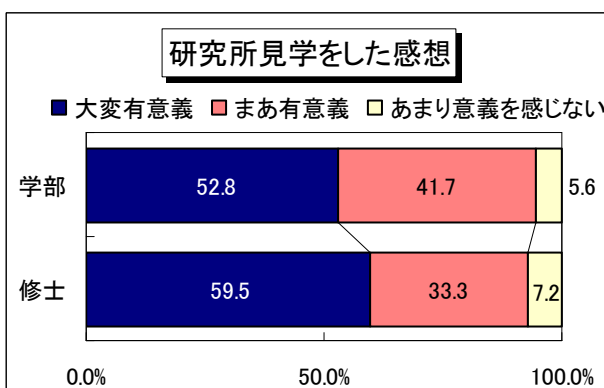
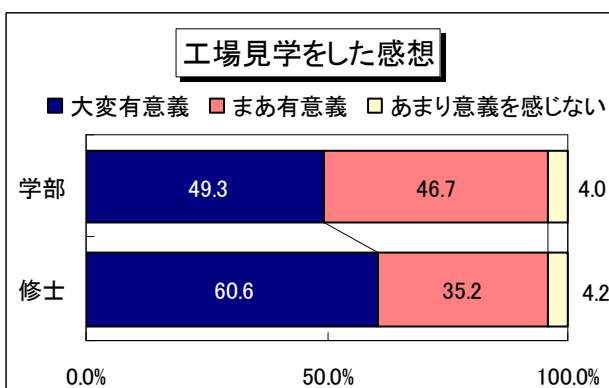
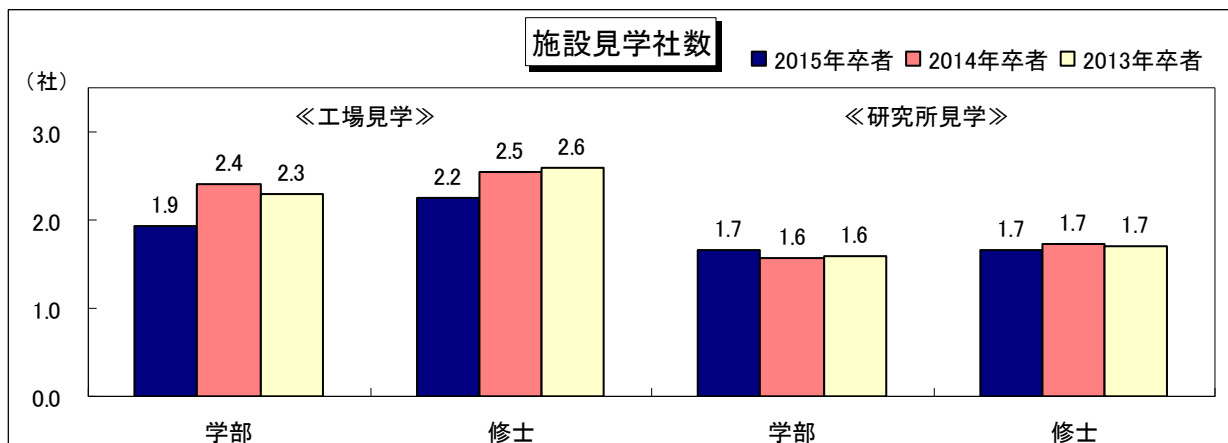
### 5. 理系学生の会社施設見学への参加状況

理系学生を対象に、「工場見学」「研究所見学」の参加状況を聞いた。工場見学に参加した学生は40.0%で、前年同期(38.7%)よりやや増えた。参加率は学部生より修士学生のほうが高く、約2倍の差がある。参加した学生の平均社数は、学部生1.9社、修士生2.2社と大きな差はないが、ともに前年より減った。一方「研究所見学」は、主に研究職志望者が対象となるため、学部生の参加率は14.0%と極端に低く、修士生38.9%と大きな差が開いている。参加学生の平均社数は、学部・修士とも1.7社。

施設見学参加者に感想を求めたところ、工場見学・研究所見学ともに9割以上が「有意義」と回答し、参加者の満足度は総じて高い。

理系の施設見学の状況

	全体	(前年全体)	学部	修士
工場見学に参加した	40.0	38.7	29.1	49.8
研究所見学に参加した	27.1	29.8	14.0	38.9



#### 施設見学をした感想

○実際にものが作られている現場を見ることで、やる気がでた。また、どのように作られているのか把握することで製品への理解が深まった。 <理系男子>

○企業によっては生産ラインや製油所内を見せていただけましたが、ショールームや社内食堂しか見られないところもありました。 <理系男子>

○説明会で見える企業の顔と現場で見る企業の顔には少なからずギャップがあり、印象が良い方向、悪い方向のいずれに変化するとしても、企業を違う視点から見るができる機会があることは非常に有意義だった。

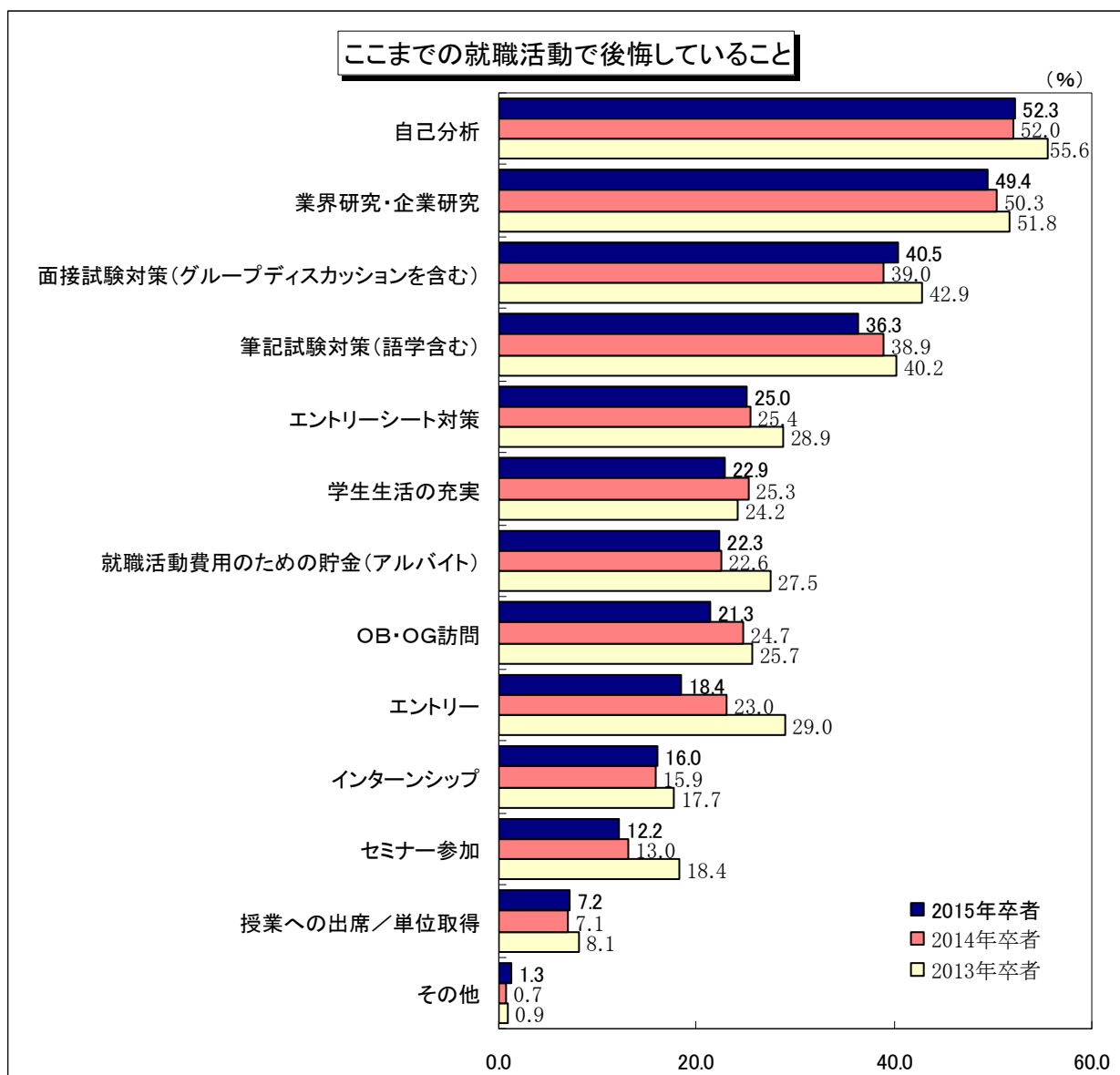
<理系男子>

### 6. ここまでの就職活動で後悔していること

本格的な選考シーズンを迎えたばかりだが、96.2%と9割以上が「もっとしっかり（たくさん）やっておけばよかった」と後悔していることがあると回答した。文理や男女といった属性での差はあまり見られない。

後悔している内容としてあてはまるものをすべて選んでもらったところ、前年に引き続き「自己分析」が最も多く、52.3%と過半数が選んだ。次いで「業界研究・企業研究」49.4%、「面接試験対策（グループディスカッションを含む）」40.5%と続く。

この3年間を比較すると、全体的に数値が下がっており、一人あたりが選んだ項目が減っている。特に、2カ月間の短縮により準備不足のまま本番を迎えざるを得なかった2013年卒者の数値と比べると、すべての項目がポイントを下げている。2015年卒者は、スケジュールも先輩たちと同じで経験から来るアドバイスがもらえ、企業の採用意欲も高いという背景がある。後悔の度合いがやや落ちているのは、こうしたことが理由なのだろう。

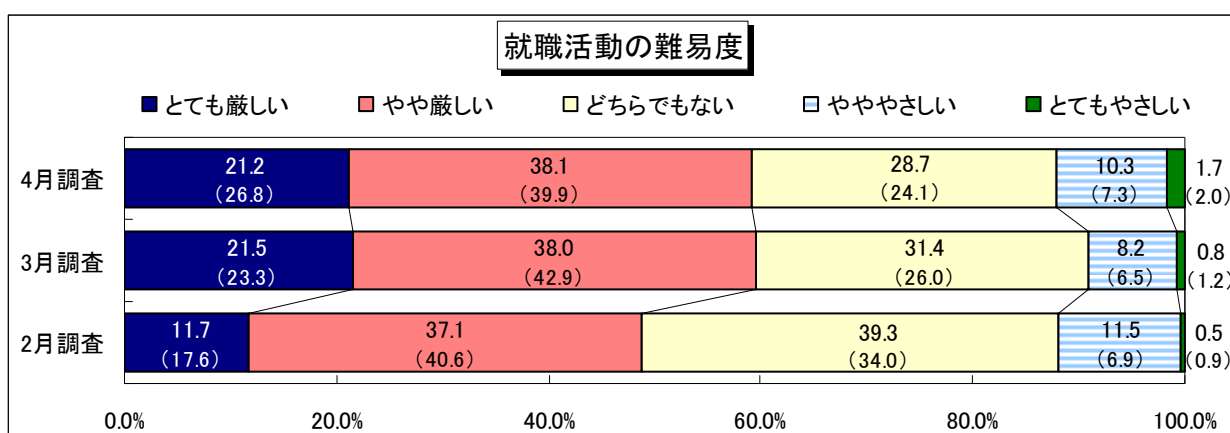


## 7. 就職活動の難易度

就職活動の難易度の推移をこの3カ月間で見てみた(「わからない」と回答した人を除く)。「厳しい」と感じる学生が、2月から3月にかけて増加したが(48.4%→59.5%)、4月調査では微減し、逆に「やさしい」との回答割合が増えた。前年調査では月を追うごとに「厳しい」と見る学生が増加していたので、対照的な動きだ。

3月調査時は、エントリーシートの合否が判明したり、筆記試験に落ちたりすることで厳しさを実感する学生が増えたものの、その後順調に選考が進み内定が出たことで、厳しさがさらに進むことにはならなかったようだ。

いずれの月も「厳しい」を選ぶ学生は前年より少なく、内定率の増加もあいまって、楽観的な見方が広がっていると言える。

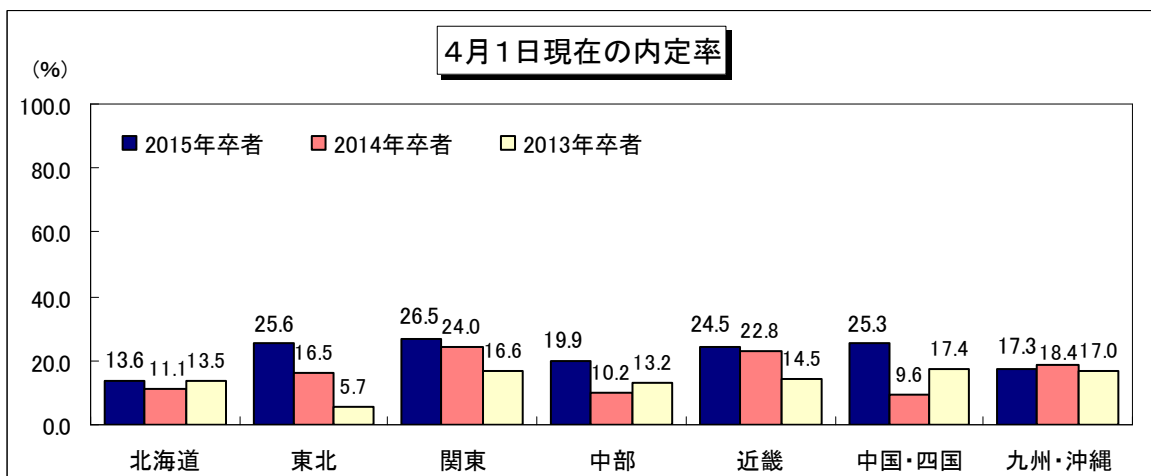
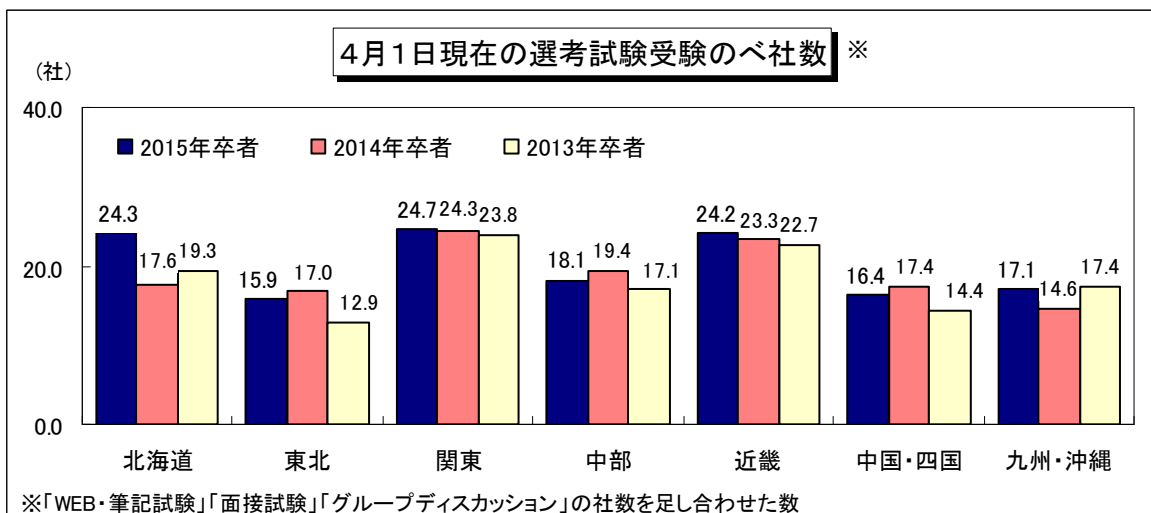
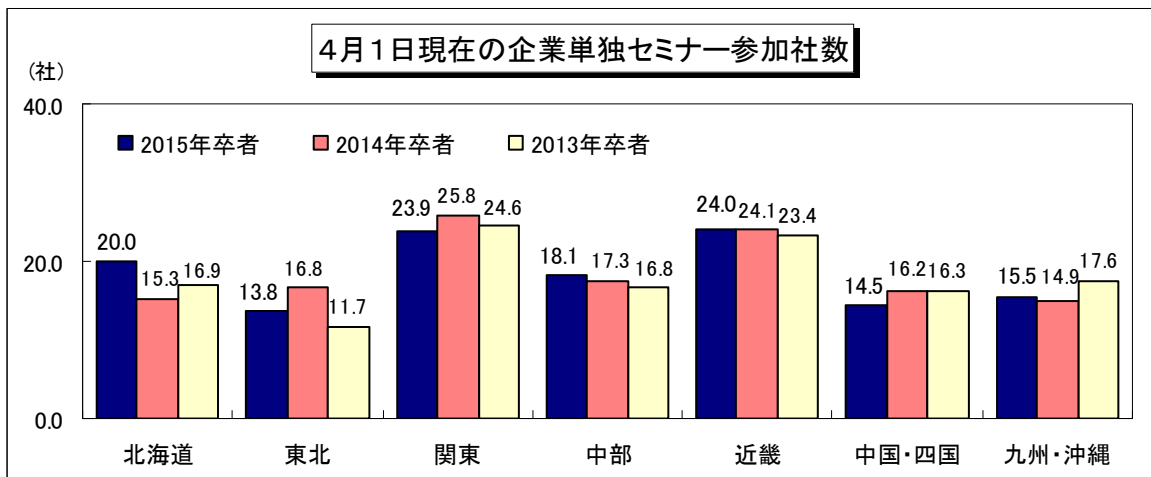


### ■就職活動に関して思うこと

- 記念受験のつもりで受けていた企業に想像以上に進んでいるため、それらの中で志望順位が曖昧なため、今後、すべてにおいて中途半端な結果にならないようにしたい。 <文系男子>
- 短期決戦ゆえ、正確な情報をいかに迅速に、そして多量に収集するかが勝負だったと痛感しています。 <理系女子>
- 内定を頂いてからも本当にその会社が自分にあっているかなど悩むことは多い。 <理系男子>
- ニュースでは景気回復で就活も楽になっているとは言っていたが、実際には未だ内定を貰えず、それが実感できないでいる。 <文系女子>
- 研究をしているだけではほとんどアピールポイントがない。このことは理系の少なくない人数の人が当てはまると思う。そういった経験があるのは良いことだとは思いますが、そのことで優劣が付けられてしまう就職活動という制度はどうなのだろうかと感じる。 <理系男子>
- なんとなく、で就職活動している人が多い。選考が進むにつれて、周りの学生が洗練されていくのが分かる。 <文系男子>
- 就職活動は厳しいことも多く、特に来るのか来ないのか分からない通過の連絡を待っているときが一番つらかったです。電話が光ったときの嬉しさは忘れられません。 <理系女子>
- 実際に面接選考などがスタートし、就職活動前に抱いていた不安は多少解消されましたが、いまだに就職活動を易しいとは感じておらず、日々試行錯誤をしながら選考に臨んでいる状況です。 <文系女子>
- 自信を持てばできる。面接官は働くにあたっての覚悟を見ている気がした。 <文系男子>
- 持ち駒がゼロになりそうで、これからエントリーできる企業を探す必要ができました。 <文系女子>
- 就職活動は、エントリーシートや履歴書など、書かなければならない書類が多いです。しかし、これも私が良い企業に出会うためだと思って、一生懸命頑張っています。 <理系男子>



《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2015年卒者	66	82	529	171	278	95	104
2014年卒者	72	79	545	157	259	73	103
2013年卒者	52	70	512	167	241	86	88